

ソフトウェア品質保証 責任者の会

第2期 第5回会合次第

2014年2月28日(金) 19:00~21:00
ソフトウェア品質保証責任者の会準備委員会

本日の内容

- 19:00～19:10 オリエンテーション
部長の会合宿参加報告
前回までの例会報告
日科技連からのお知らせ
- 19:10～20:10 講演(45分)+質疑応答(15分)
「人材育成の勘所
～トップガン研修からの教訓～」
講師：古畑慶次氏（デンソー技研センター）
- 20:10～21:00
議論の深堀り
20:10 ～ 21:00：議論深堀
21:00 ～ 21:xx：各チーム報告

*** 終了後に懇親会を実施します。**

講演：人材育成

- テーマ：人材育成の勘所
～トップガン教育からの教訓
- 講師：古畑慶次氏氏（デンソー技研センター）



今枝 誠著
古畑 慶次著
A5判200頁

<http://www.juse-p.co.jp/cgi-bin/html.pl5?i=ISBN978-4-8171-9490-9>



@ 「派生開発カンファレンス2011」

http://www.xddp.jp/conference/2011/xddp2011_p6_kobata.jpg

部長の会 合宿参加報告

- 日程：2014年2月7日(金)13:00～8日(土) 11:00
☆ 大雪のため1時間前倒しで終了
- 場所：四季の湯温泉 ヘリテイジ・リゾート（埼玉県）
- 内容：
 - 事例発表
 - 「東芝ソリューション品質保証の取り組みと課題」
 - 「アプリケーション点検による稼働後品質の向上」
 - 「品質作り込み目標値と稼働後トラブルの関係について」
 - 「ATM監視運用ソリューションのご紹介とサービス品質」
 - テーマに分かれての議論
 - 経営視点から品質を考える
 - ソフトウェア品質保証の肝
 - 超上流からの品質保証
 - 人材育成
 - アジャイルと品質
 - 議論結果報告（ここで責任者の会の報告実施）

SQiPシンポジウム投稿応援フォーラム

SQiPシンポジウム投稿に向けてのお悩み解決

- 社外発表してみたいけど投稿レベルに合っているか不安…
- 発表してみたいけど、アブストラクト、論文のまとめ方が分からない…
こうした悩みに、投稿経験者がお答えします。

日時：2014年3月19日(水) 19:00～21:00

場所：中央電気倶楽部（ココです）

内容：

- SQiPシンポジウムの紹介
細谷泰夫氏（三菱電機：SQiPシンポジウム実行委員）
- 新人中心のチームによるアジャイル開発事例
（SQiPシンポジウムで実際に発表された事例の内容を紹介）
細谷泰夫氏
- 品質保証責任者の会のSQiPシンポジウムに向けての活動の紹介
- SQiPシンポジウム投稿体験談
水野昇幸氏（三菱電機）
SQiP2013 Best Report Effective Award 受賞
- アブストラクトの書き方
細谷泰夫氏

参加者
運営支援
募集中

例会報告

■ 第2期活動

- 活動テーマ検討
 - テーマの分類とグルーピング
 - テーマ案化
- 活動テーマ紹介と検討
- チーム分け
 - 活動したいテーマ毎に分かれて活動
- テーマの詳細化
 - ブレインストーミングによるキーワード抽出
 - キーワードのグルーピングと“つながり”の確認
- 希望講師検討
 - 活動に必要な情報入手に適切な方を選定

準備委員会
が事前準備

活動中

チーム活動

テーマ分類

いただいたテーマ案を
含まれるキーワードな
どで分類しました。

テーマ案	分類1	分類2	分類3
各社の品質保証部門の抱える課題共有や事例紹介をし、その内容を討論する。	大方針		
ソフトウェア品質保証担当者の育成とSQuBOKの活用 技術的側面 – 品質保証の勉強を1から始める –	育成 育成	学習 学習	
どのような組織（プロジェクト）では、どのような品質保証・品質管理をすべきか。	研究・調査	プロセス	テーラリング
さまざまなプロセスモデルに対するソフトウェア品質保証	研究・調査	プロセス	テーラリング
そもそもプロセスはソフトウェア品質に貢献しているのか？	研究・調査	プロセス	
ソフトウェア固有の品質保証法とは？ ハードウェアの“ばらつき制御”と異なるアプローチ	研究・調査	プロセス	
ソフトウェアの最適な品質テストの仕方（仮）	実務品質部門 とテスト部門 （組織論）	品証観点テス ト技術	テストプロセ スによる品質 保証
デザインレビューの効率的なやり方 フロントローディングの割に手法が確立していない	実務	レビュー技術	
調達品（OTS/受託）に対するソフトウェア品質保証	実務	プロセス	受入テスト
品質管理部門を持たない中小企業でも明日から出来る品質への取り組み	実務	プロセス	テーラリング の一形態
一個人でも出来る品質を向上させる方法	実務	プロセス	テーラリング の一形態
ソフトウェアのプロジェクト計画とは？ 「組織的な改善の視点」のもの	研究・調査	プロジェクト	
火を吹いているプロジェクトの火消事例	実務		

テーマ分類

[基本的な考え方]
ソフトウェアの品質保証
はプロセスで行う

目指す姿を投影しました

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な品質保証
それを目指す品質担当者

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な
品質保証プロセスモデル

大組織 → 中小 → 個人

品質モデル構築
各種モデルのテーラリング
→ 受入テスト (COTS)
→ 品証テストの実装

Not 小技集

中小
個人

観点の
相違
類似

実装からの
Feedback

応用力を持つ
品質保証担当者
育成と適切な評価

育成 (教育)

Ex. S
理解しやすい体系化
応用力
モデル設定と評価指標設定

基礎的知識
理解しやすい体系 (≠BOK)

Baseline

テーマ化

[基本的な考え方]
ソフトウェアの品質保証
はプロセスで行う

活動指標

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な品質保証
それを目指す品質担当者

大組織 → 中小 → 個人

中小

個人

観点の
相違
類似

Not 小技集

活動テーマ案

大組織の品質保証を下敷きに
中小組織に適切な
品質保証プロセスモデル

品質モデル構築

各種モデルのテーラリング
→ 受入テスト (COTS)
→ 品証テストの実装

実装からの
Feedback

応用力を持つ
品質保証担当者
育成と適切な評価

育成 (教育)

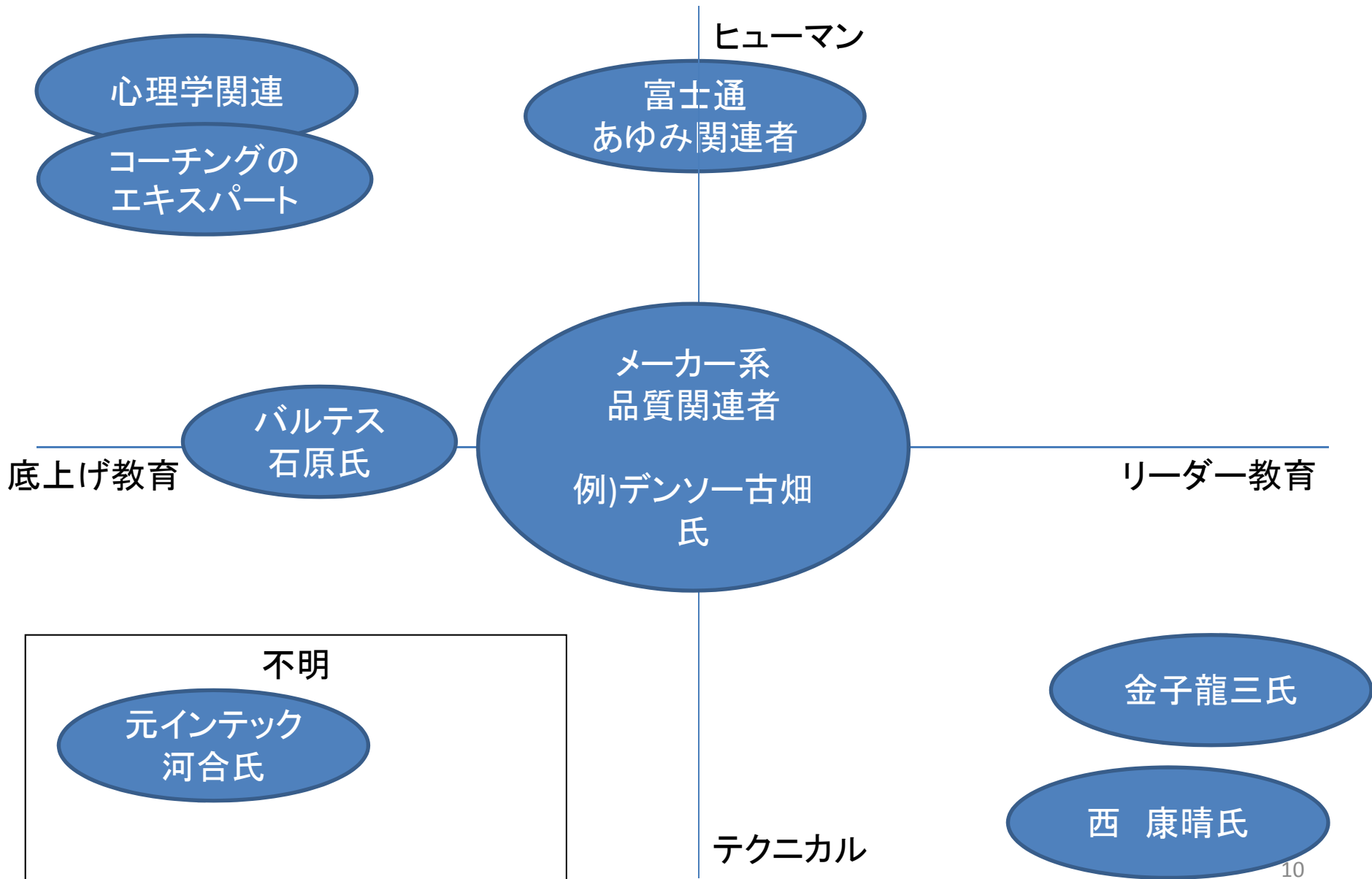
Ex. S

理解しやすい体系化
応用力
モデル設定と評価指標設定

基礎的知識
理解しやすい体系 (≠BOK)

Baseline

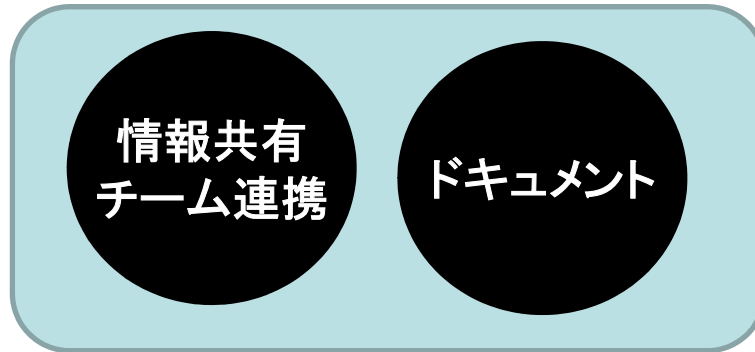
講演者候補検討



品質保証責任者の会(2014/1/22)まとめ

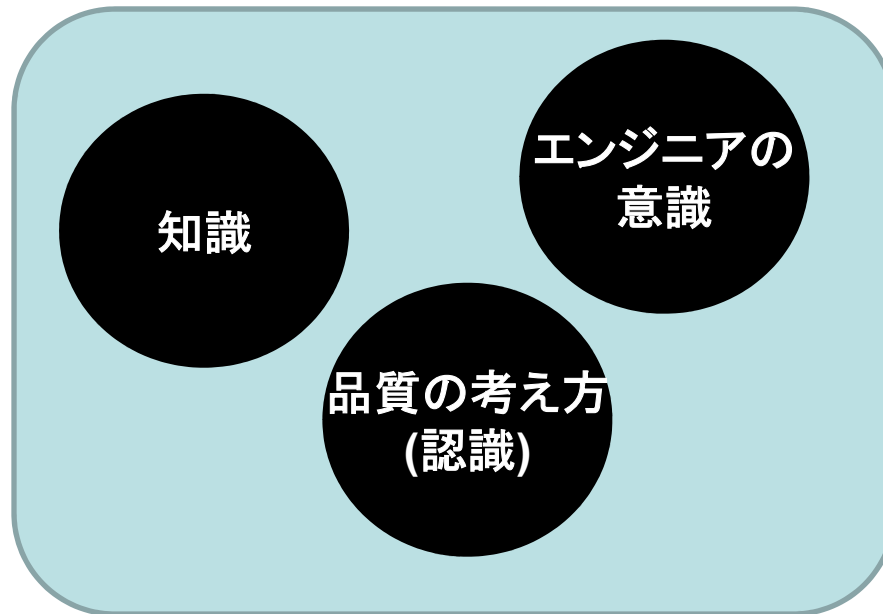
<< 前回のホワイトボード >>

外向き
(チーム)



教育・育成(何を、どのよう
に)

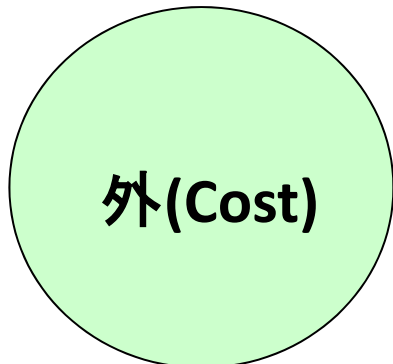
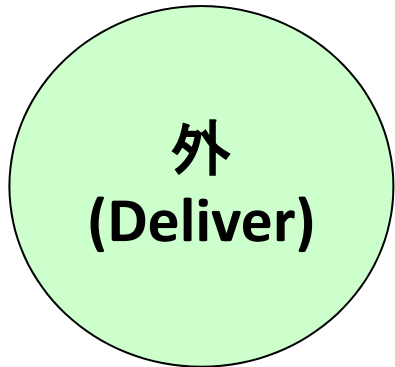
Dev・Test 連携



One for All.
All for One.



次第に良くなる

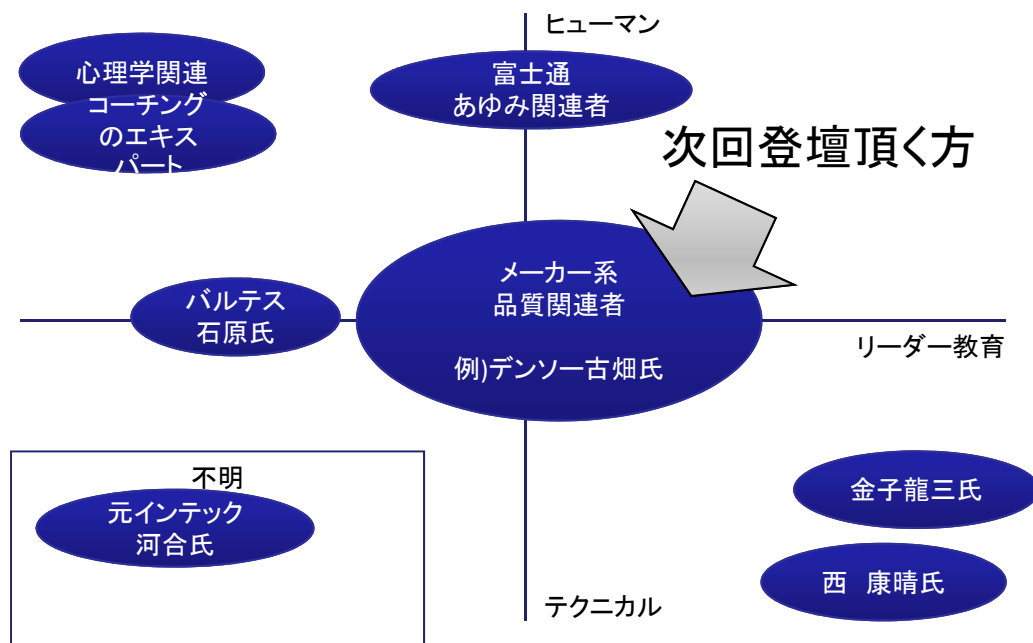


内向き(個人)

品質保証責任者の会(2014/1/22)まとめ

- 再度どのような「教育」を望むのか？を自社の状況から考える
 - 提供された機能の実現“だけ”を実装し品質を高めるという意識が欠けている
 - 自社で受け入れる品質に対する意識は高いが知識が欠けている

幅広くバランスのとれた人材教育が必要では？



開発者同士の会(2014/1/22)まとめ

外向き
(チーム)

情報共有
チーム連携

ドキュメント

教育・育成(何を、
どのように)

外
(Deliver)

知識

エンジニアの
意識

品質とは
(認識)

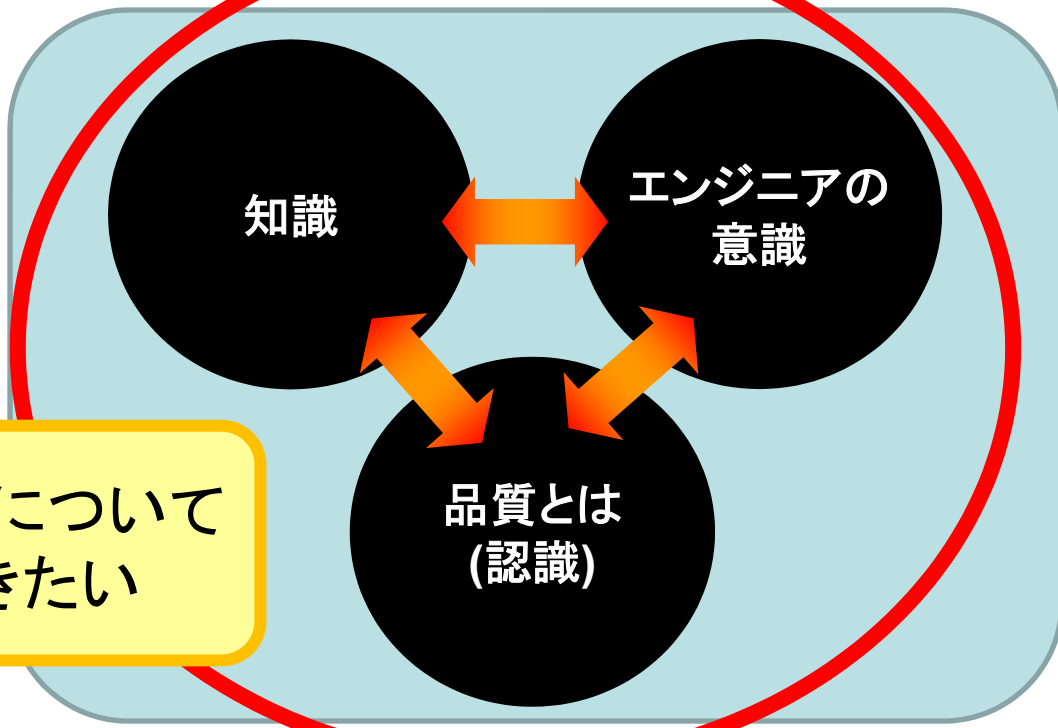
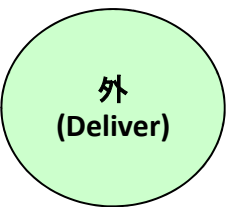
Dev・Test 連携

One for All.
All for One.

このバランスについて
考えていきたい

次第に良くなる

内向き(個人)



開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第二回は

「じゃあ、身の丈って」何なんだ？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

「身の丈」をさまざまな角度から(もう少し整理が必要！)

誰の目線？→開発側

あるべき姿？or現状

顧客に「身の丈」を説明できるか？

他に置き換える言葉は無いのか？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

→「**要求**」と定義できるのでは？

「品質」とは「顧客の要求を満たす度合い」とも言える 「

当たり前品質」と「魅力的品質」と「身の丈」との関係は？

開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第三回は 活動の方向性の確認と、論議の深堀

再び「身の丈って」何なんだ？

品質

「身の丈」:適切なレベル

→現状レベルから「顧客の要求を満たす」レベルへ進めることが必要。

しかし、「身の丈」は、製品、ドメイン、国家・・・により異なる。

→**求められる品質特性も違うはず**。(TQCはあまりにも一般的)

だが、現状は品質を担保できるようなプロセスとなっていない。

解決策→

品質プロセスをテーラリングする項目、要素の指標を検討する。

課題

**求められる品質特性を抑えるにはどのプロセスが必要か？
外してはいけない特性は何？**

チーム作業報告

■ 前回例会の報告

- 品質技術者の育て方(仮)
- 開発プロセス

■ チーム作業

- 活動の方向性の確認
- 議論の深堀
- 希望する講演テーマと講師の選定

■ 発表

- 報告10分、質疑応答 5分

次回以降の予定

詳細は追ってお知らせします

■ 第6回定例会： **予定が変更になりました！**

日時：2014年3月29日(土) 13:00～17:00

場所：中央電気倶楽部（ココ）

セミナー：未定 募集中！

- 第7回定例会 2014年4月
- 第8回定例会 2014年5月
- 第9回定例会 2014年6月
- 第10回定例会 2014年7月

原則として平日（水・金）の
19:00～

数か月ごとに土曜午後